

東京都立大学附属高等学校同窓会定期総会

日時 2018年10月21日(日) 14時～16時

場所 桜修館中等教育学校「多目的ホール」

議事次第 理事長あいさつ、来賓・桜修館中等教育学校長あいさつ、
議案1～議案3の質疑、承認、決定。自由討議

議案1 活動報告

① 会報の発行

現在、同窓会報は年1回、A4版カラー12ページを原則として発行している。

2018(平成30)年6月30日発行の最近号は、印刷部数9,000部、同窓会員への
発送部数は海外在住者を含み8,333部、特別会員(恩師)へ154部、
桜修館職員・PTA・生徒への配布が170部、桜修館同窓会役員へ30部。

会報の発行は同窓会活動のベースともいえるもので、発行・発送費が年間経費の7
割強を占めている。

会報に会費納入のお願いと払込票を同封して、会費の納入増を図っている。

② 名簿の管理

<2018年10月14日現在の名簿状況>

会員総数(生徒)14,355名、住所判明者 8,268名、(住所判明者の中には、
海外在住100名、会報受け取り拒否45名を含む)、特別会員(恩師)157名
死亡 632名、住所不明5,455名

名簿管理担当常務理事中心に各期の理事ほかの協力を得て、住所不明者の減
少に務めており、年間200名ほど増加していた不明者が半減している。ホームペ
ージのフォームメールへの住所変更の投稿も増えている。

<個人情報の取り扱いについて>

現在、同窓会が保有している「提供された個人情報」では、名簿データ以外に対
象となるものはない。このデータは2005年に発行された「同窓会名簿」作成時に
回答があったものを基本としており、「本人の同意があったもの」とみなしている。

(1) 同窓会会則【細則】への追記(赤字部分追記)

第10条 冊子としての名簿の発行は当面行わないが、会員の名簿は会報等
の送付のため継続して刷新していく。同窓会で保有している氏名・卒業年組
・住所・電話番号・メールアドレス等の個人データに関しては、原則として名簿
の整備更新、同窓会報の発送、同窓会主催・公認イベントの案内のみに使用
することとする。

(2) 情報受け渡しルール

- ・電子メール送付時にパスワードをつける
- ・メールおよび郵送時の文書に注意文を付記する

(例) お送りする名簿情報に関しては、同窓会名簿の整備、同窓会主

催・公認イベントの案内に使用することが目的であり、他の用件での使用を一切禁じます。

(3) 同窓会ホームページ掲載のプライバシーポリシー

同窓会は、提供された個人情報に関し、①本人の同意があった場合、②行政機関、司法機関から法的義務に基づく要請があった場合、を除いて第三者に開示することはありません。

③ 「八雲が丘ホームカミングデー」の開催

前回の総会后に始めた新しい事業。この企画は、都大附高同窓会と桜修館同窓会の共催、桜修館中等教育学校の協力を得て、卒業から50年、25年を経過した同窓生に、八雲が丘に帰ってきてもらおうというもの。第1回は15期生と40期生、桜修館1期生を対象に2015年秋に開催された。各年度1回ずつ開催され、今年度は第4回として12月2日に予定されている。

卒業50年をすでに経過していた同窓生向けには、昨年秋「特別版」として旧制府立卒業生から都大附高第9期までを対象に開催された。10期～14期に関しては改めて特別版を実施予定。

④ 八雲が丘学友会

旧制府立高等学校、都立大附属高等学校、桜修館中等教育学校の3校の同窓会の連合体。各同窓会相互の交流を図り、桜修館の発展に寄与するとともに、府立高、都大附高の知的財産を保護、継承することを目的とする。

年4回程度、各同窓会と桜修館、桜修館 PTA の代表者による会合をもっている。

本年5月「会則」を一部改正し、(1)会計年度を4月～3月とする、(2)顧問を桜修館中等教育学校長、副校長、PTA 役員若干名、とした。

⑤ 記念祭への出展

桜修館の学園祭は、「記念祭」の名称、回数を都大附高から継承しており、今年は9月8日、9日に第70回が開催された。同窓会は毎年校内に同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展し、旧制以来の古い資料や写真を展示するほか、校歌・記念祭歌・学生歌・寮歌の DVD を終日放映している。また、旧制府立高 OB を含む同窓生で、校歌・寮歌などを歌うイベントを桜修館校内で開催している。

⑥ 「八雲が丘賞」

2013年(平成25年)に創設された賞。桜修館の生徒たちによる優秀な部活動や課外活動に対して、都大附高同窓会から贈られる。

これまで、「日本文化部・茶道部門」、「フィールド・ワーク部」、「写真部」「美術部」「科学部」が受賞し、本年の第6回は「創作部」が9月10日の記念祭閉祭式の会場で、全校生徒の前で受賞した。

⑦ 桜修館開校10周年記念事業

桜修館中等教育学校の創立10周年記念事業として、八雲が丘学友会が正面玄関上の校舎外壁に校章レリーフを取り付け、寄贈した。レリーフは、ブロンズ製で、直径70cm、重さは約30kg。製作は(株)東洋鋳銅銘板。

⑧ 学生歌、記念祭歌、寮歌の継承、保存

二期会会員・佐藤文行氏(17期)の監修により、旧制府立高校時代の歌から10曲、都立大附属高校時代の歌から5曲、および校歌の16曲について、伴奏譜を編曲・制作し、デジタル化して八雲が丘学友会が保有している。

学生歌「嗚呼烈誠の」、学生歌「青春といふ」、旧制第9回記念祭歌「見よやローマの」同10回「爽味かな」、同11回「銀扇空に」、同17回「八重なせる」、第五寮歌「紫の霞」、第八寮歌「春残更に」、文乙歌「いざ友」、理乙歌「流るゝ月日」

新制第1回記念祭歌「手をつなげ」、同2回「古きいらか」、同7回「吹きすさぶ」、同9回「それ今天地は」、同17回「晩夏に集う」

⑨ 同窓生による講演会の開催

同窓生による講演は昨年2回開催された。

講師＝吉松安弘氏(2期、映画監督・脚本家)による口演会『伝統って何だ?』

講師＝三ツ谷洋子(16期、スポーツジャーナリスト・コンサルタント)による講演会『「校風」とは?』

⑩ 同窓会ホームページの刷新・拡充

以下の3点を中心に、旧ホームページの使いにくさなどを改善した。

(1)コンテンツや情報をいくつかの軸に整理し直した。「同窓会とは」「会報」「イベント」「コラム」「校歌・学生歌」「交流の広場」をメインメニューとして用意しその下をさらにカテゴリー分けした。

(2)会報や過去の印刷物を活用してコンテンツを充実させた。PDFで過去の同窓会報を閲覧可能にしたほか、会報、都立60年誌などからコラムを抜粋、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌の歌詞と一部解説コラムも載せている。

(3)メニューをすべてのページの同じ位置に置くなど、インターフェイスを統一して使いやすくした。「交流の広場」を設け、クラス会や同期会の情報を掲載可能とした。

議案2 会費の納入状況と財政状況

(別紙参照)

議案3 今後の活動計画

<2018年度役員>

理事長	宍戸 迪武(13期)
常務理事・会報編集委員長	須田 大春(8期)
常務理事・事業担当	佐々木浩二(15期)
常務理事・HP担当	嶋津 和行(26期)
常務理事・名簿管理担当	石川 恵子(35期)
常務理事・会計担当	下村 聡美(43期)
監事	簗原 利憲(11期)

<基本的な方針>

- 一、同総会会員の同窓生としての活動を支援し会員相互の親睦を深める、
- 一、旧制府立高校以来の伝統、精神を受け継ぎ、桜修館に引き継いでゆく、
- 一、桜修館の発展、生徒の成長に寄与するなど、社会的に意義ある活動をする、

以上の三つをバランスよく展開、拡充していく。

これらの活動を支えるため、同窓生の協力を得て、より健全な財政状態の確立に努める。また多くの同窓生に、何らかの形で同窓会活動に関わってもらう機会を創出する。桜修館同窓会との連携・協力関係を強化する。

1、「八雲が丘ホームカミング・デー」

第1～3回および特別版は、めぐろパーシモンホール小ホールを会場として使用したが、小ホールを抽選によらず確保することが出来なくなったため、今年度より桜修館の協力を得て、校内で開催することとなった。

本年の第4回は、18期生、43期生が対象で、12月2日に実施する。

2、会報の編集・発行

当面 A4版12ページ・フルカラー、9200部程度印刷、は維持するが、会活動の活発化によってはページ数の拡充も検討する。

＜編集委員＞ 8期・須田大春、13期・宍戸迪武、14期・川田秀文

21期・根岸之夫、26期・嶋津和行、35期・石川恵子、43期・下村聡美

3、課外授業「ようこそ先輩(仮称)」の実施

昨年度2回開催された同窓生による講演会を、定期的なものに拡大したい。

4、記念祭への参加、出展

今後も記念祭には積極的に参加していく。

これまで通り、同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展。旧制府立以来の資料、過去の写真の展示、府立高校開校以来の年表掲出、終日DVD放映(「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集」など)を行う。

また校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌を歌うイベントも継続的に実施する。

5、名簿の整備

印刷された名簿の発行は行わないが、住所録の整備を進め、同窓会活動、各期・各クラス、クラブ OBOG 会などで活用できる名簿原簿としたいと考えている。消息探しを進めて、会報が確実に届く同窓会員を増やしたいと思うので、各期の方々の協力をお願いしたい。

6、旧制以来の歌の継承・保存

伴奏譜の制作により、昔の歌もピアノ伴奏で歌える体制は出来つつあるが、実際に歌うチャンスは少ない。旧制府立高の卒業生が月に一度集まって寮歌・記念祭歌などを歌う「一土会」という集まりがあるが、府立の卒業生は減る一方で、会の維持は困難になっている。都大附高の同窓生でこうした会を引き継いでほしいとの希望も出ているが対応できるか。

7、新たな事業の創出

以 上